

講座

B2

オンデマンド講義

配信
期間

8.20(火)～3.31(月)

文学部 哲学科

はっとり ゆきひろ

服部 敬弘 准教授

哲学無用論

哲学は抽象的です。哲学者は、存在、真理、神など、目に見えない観念的なものについて延々と論じています。彼らの議論はあまりに現実離れしていて、何の役に立つのかと疑問に思うものばかりかもしれません。この疑問は今に始まったものではありません。哲学が産声をあげた2500年前のギリシアではすでに、哲学は「国家社会に役立たない人間」を生み出すだけだ、という批判がなされていました。では、このような批判に哲学者自身はどう答えたのでしょうか。プラトンは、当時の「哲学無用論」に対して様々な比喻を使って応答しています。プラトンの答えに耳を傾けることで、哲学することの意味について考えてみたいと思います。